

令和5年度
インドジャル・シャクティ省との協力覚書に係る
第1回会議体会合及びセミナー開催業務
報告書

令和6年3月

環境省廃棄物適正処理推進課浄化槽推進室
公益財団法人日本環境整備教育センター

目次

第 1 章 業務概要.....	1
1.1. 目的.....	1
1.2. 実施事項.....	1
1.2.1. 第 1 回会議体会合の開催.....	1
1.2.2. セミナーの開催.....	1
1.2.3. 来期の共同作業に関する調整.....	1
1.2.4. 打合せ.....	1
1.3. 実施体制.....	2
1.4. 業務実施スケジュール.....	2
第 2 章 第 1 回会議体会合の開催.....	3
2.1. 会議体構成メンバー表及び共同作業計画書の作成.....	3
2.2. 第 1 回会議体会合のプログラムの作成.....	4
2.3. 第 1 回会議体会合の開催.....	4
2.3.1. 開催概要.....	4
2.3.2. 有識者への謝金の支払い・同時通訳者の備上.....	5
2.3.3. 第 1 回会議体会合議事要旨.....	5
第 3 章 セミナーの開催.....	14
3.1. セミナーの詳細プログラムの作成.....	14
3.2. セミナーの開催.....	14
3.2.1. 開催概要.....	14
3.2.2. 有識者への謝金の支払い・同時通訳者の備上.....	17
3.2.3. セミナーにおける質疑応答.....	17
第 4 章 来期の共同作業に関する調整.....	18
第 5 章 環境省担当官との打合せ.....	19
5.1. 第 1 回打合せ.....	19
5.2. 第 2 回打合せ.....	21

5.3. 第3回打合せ	22
5.4. 第4回打合せ	23
第6章 資料編	25
6.1. 最終版の共同作業計画書	25
6.2. 第1回会議体会合プログラム	30
6.3. 第1回会議体会合における発表資料	34
6.3.1. ジャル・シャクティ省の紹介	34
6.3.2. インド側協賛メンバー Arvind Envisol Ltd.による発表	36
6.3.3. インド側協賛メンバー Sintex BAPL Ltd.による発表	40
6.3.4. インド側協賛メンバー Daiki Axis India Pvt. Ltd.による発表	48
6.3.5. 日本側協賛メンバー クボタ浄化槽システム株式会社による発表	53
6.3.6. 日本側協賛メンバー フジクリーン工業株式会社による発表	57
6.3.7. 日本側協賛メンバー 株式会社ダイキアクシスによる発表	61
6.4. セミナープログラム	64
6.5. セミナーにおける発表資料	66
6.5.1. インド側（NMCG）のセミナー発表資料（Current Status of Domestic Wastewater Treatment & Management (for centralized and decentralized treatment system) in India）	66
6.5.2. 日本側環境省のセミナー発表資料（Current Status of Domestic Wastewater Treatment and its Management for Centralized and Decentralized Treatment System in Japan）	71
6.5.3. 日本側環境省のセミナー発表資料（Legal System of Decentralized Domestic Wastewater Treatment Management in Japan including the Johkasou Act）	73
6.5.4. JECES のセミナー発表資料（Operation and maintenance, cleaning, inspection, license and sludge management for Johkasou）	75
6.5.5. フジクリーン工業株式会社のセミナー発表資料（Structure, function and performance evaluation testing system for the Johkasou）	78
6.5.6. クボタ浄化槽システム株式会社のセミナー発表資料（Estimation method of Population Equivalent (PE)）	81
6.5.7. 株式会社ダイキアクシスのセミナー発表資料（Installation work of Johkasou）	84
6.6. セミナーにおける質疑応答	90
6.7. セミナー終了後に日本側会議体メンバーから受領した質問	96

第 1 章 業務概要

1.1. 目的

令和元年 12 月にインド・デリーにて浄化槽海外セミナーが開催され、その際にジャル・シャクティ省から浄化槽に関する協力覚書締結に関する要望が出された。それ以降、在インド日本大使館と連携してジャル・シャクティ省と協議を重ね、令和 4 年 3 月に日本国環境省とジャル・シャクティ省との間で公共水域の水環境保全と公衆衛生の向上を目的とした浄化槽を活用した分散型生活排水管理に関する協力覚書を締結した（本協力覚書に基づき、日本国環境省とインド共和国ジャル・シャクティ省について、以下、個別に「日本側」、「インド側」といい、総称して「両側」という）。

それ以降、インド側と日本側は協議を重ね、協力覚書に基づく推進母体である会議体構成メンバー表、今後の協力実施内容を記載した共同作業計画書、共同作業計画書の添付資料として、初回の共同作業となるセミナーのプログラム案等のドラフトを作成したところである。

そこで本業務では、これら関連書類を完成させ、第 1 回会議体会合を開催して会議体構成メンバーからこれら書類の承認を得る。次いで、セミナーの議事次第の詳細を詰め、それに基づいたセミナーを開催することを目的とする。

1.2. 実施事項

1.2.1. 第 1 回会議体会合の開催

- (ア) 会議体メンバーと協賛メンバーが記載された会議体構成メンバー表の日本側メンバー部分と共同作業計画書を日本側とインド側に協議の上、最終版を作成した。
- (イ) 開催日時、開催方法、司会者、詳細議事次第等の項目を含む第 1 回会議体会合のプログラムを日本側とインド側との協議を踏まえて作成した。
- (ウ) プログラムに基づき第 1 回会議体会合をオンライン開催した。今後の協力実施内容を記載した共同作業計画書の承認を得て次の推進項目であるセミナー開催に繋げた。

1.2.2. セミナーの開催

- (ア) 開催日時、開催方法、司会者、発表テーマ、発表者等の詳細を含む詳細プログラムを、日本側とインド側との協議を踏まえて作成した。
- (イ) 第 1 回会議体会合で承認された共同作業計画書及びセミナーのプログラム案を基にセミナーをオンライン開催した。

1.2.3. 来期の共同作業に関する調整

来期の共同作業に関し、環境省担当官との協議を踏まえつつ、あらためてインド側の意向確認、開催に当たっての方向性や実施内容等に関してインド側との確認や調整を行った。

1.2.4. 打合せ

上記 1.2.1～1.2.3 の業務の実施にあたり、環境省担当官との打合せを 4 回実施した。

1.3. 実施体制

本業務の実施体制を図 1 に示す。

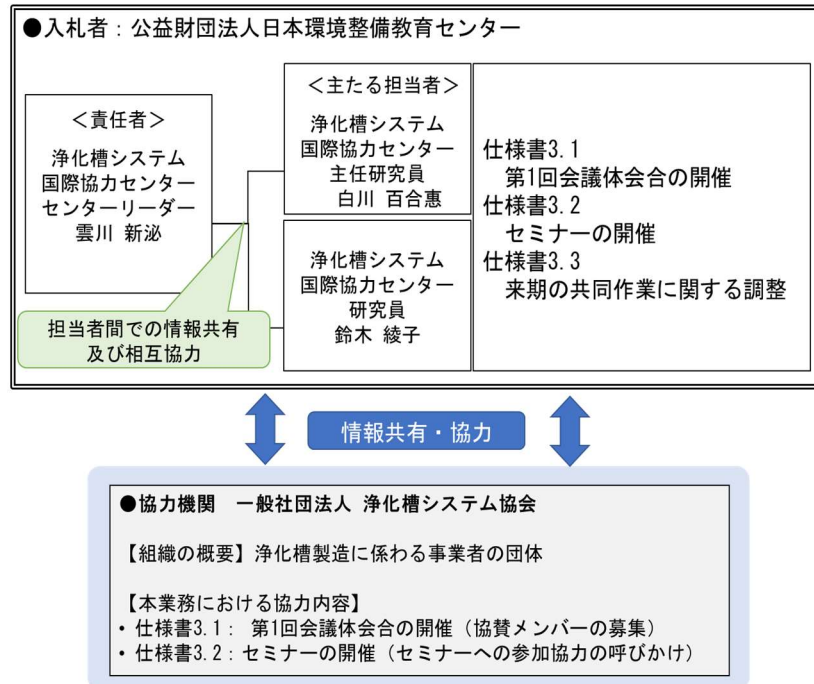


図 1 インドジャル・シャクティ省との協力覚書に係る第 1 回会議体会合及びセミナー開催業務の実施体制

1.4. 業務実施スケジュール

本業務の実施スケジュールを表 1 に示す。

表 1 業務実施スケジュール

業務内容	2023年(令和5年)												2024年(令和6年)		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
1. 第1回会議体会合の開催															
(1) 会議体構成メンバー表及び共同作業計画書の作成					●作成				●修正						
(2) 第1回会議体会合のプログラムの作成					●作成				●修正						
(3) 第1回会議体会合の開催									← 開催に向けた準備 → ●	11/28	第1回会議体 会合の開催				
2. セミナーの開催															
(1) セミナーの詳細プログラムの作成					●作成				●修正						
(2) セミナーの開催									← 開催に向けた準備 → ●	(12/19)	セミナー の開催				
3. 来期の共同作業に関する調整															
(2) インド側の意向確認・調整													← 来期に向けた 確認・調整 →		
4. 環境省担当官との打合せ															
					●				●	●					
5. 報告書の作成及び印刷															
													← 報告書の 作成 → 納品(3/22)		

第 2 章 第 1 回会議体会合の開催

2.1. 会議体構成メンバー表及び共同作業計画書の作成

第 1 回会議体会合の開催に先立ち、会議体メンバーと協賛メンバーが記載された会議体構成メンバー表の日本側メンバーと共同作業計画書を、環境省担当官とインド側に協議の上、作成した。環境省担当官と協議の上、次の 3 名の有識者に対して、日本側会議体メンバーへの就任を依頼し、承諾を得た。

有識者である河村氏は衛生工学及び浄化槽分野の専門家であり、これまで環境省浄化槽推進室の海外案件に座長やパネリストとして参画するなど、アジアの公衆衛生問題と浄化槽事情に精通している。同じく有識者である春日氏は、環境工学分野を専門とし、特に環境微生物学をテーマとした研究を多く手掛けているほか、日越大学への赴任経験など海外での研究実績も多く有する。また同じく蛭江氏は、途上国での分散型汚水処理装置の国際規格化の推進、アジア共通の分散型汚水処理装置の性能試験法の実現に向けた研究プログラムなど、浄化槽の国際展開に係る研究の中心メンバーとして活動実績が多い。

日本側協賛メンバーについては、(一社) 浄化槽システム協会を通して浄化槽メーカー各社に周知を行い、4 社が参画することになった。このほか、海外展開の実績等を考慮のうえ、インドで分散型汚水処理施設の維持管理実績を有する株式会社日吉に日本側協賛メンバーへの就任を依頼し、了承を得た。日本側会議体メンバー及び日本側協賛メンバーについて表 2 及び表 3 に示す。

なお、共同作業計画書 (Joint Working Program) については、環境省担当官やインド側と協議のうえ最終案を作成し、2023 年 11 月 29 日に開催された第 1 回会議体会合において審議したところ、一部修正があった。この修正を反映した最終版の共同作業計画書については資料編 6.1. に示した。

表 2 日本側会議体メンバー

所属		氏名	備考
環境省 浄化槽推進室	室長	沼田 正樹	環境省
	指導普及係長	佐藤 亮真	環境省
	環境専門調査員	ホワン ティー マイ	環境省
教授 (元埼玉大学教授)		河村 清史	有識者
准教授 (東京大学先端科学技術研究センター)		春日 郁朗	有識者
研究者 (国立研究開発法人国立環境研究所資源循環領域 廃棄物処理処分技術研究室主幹研究員)		蛭江 美孝	有識者
在インド日本国大使館 一等書記官		永井 弥穂子	大使館

表 3 日本側協賛メンバー

所属	氏名	所属先の海外展開状況
株式会社ハウステック	塚本 幸二	ハンガリー国において浄化槽普及に向けた調査 (環境省業務) を実施した。
株式会社日吉	松井 和彦	インドにおいて生活排水処理施設の総合維持管理に関する JICA 事業を実施した。
株式会社ダイキアクシス	佐伯 和男	インド、インドネシアで浄化槽の生産・販売を行い、アジア諸国、アフリカにも事業展開している。
クボタ浄化槽システム株式会社	北井 良人	中国、ベトナム、ミャンマーなど海外で多くの浄化槽販売実績を持つ。
フジクリーン工業株式会社	田畑 洋輔	主にアメリカ、オーストラリア、欧州を中心に浄化槽の販売事業を展開している。

2.2. 第1回会議体会合のプログラムの作成

開催日時、開催方法、司会者、詳細議事次第等の項目を含む第1回会議体会合のプログラムを環境省担当官及びインド側との協議を踏まえて作成した。また、仕様書 3.2. (1)に示されているセミナーのプログラム案について、環境省担当官やインド側との協議を踏まえ修正し、第1回会議体会合の際に議事の1つとして取り上げ、両側が協議を行った。

第1回会議体会合のプログラムについて資料編 6.2. に示す。

2.3. 第1回会議体会合の開催

2.3.1. 開催概要

第1回会議体会合を2023年11月29日にオンラインにて開催した。開催概要を表4に示す。

表4 第1回会議体会合の開催概要

日 時	2023年11月29日 日本時間16:00~18:00 (インド時間12:30~14:30)
場 所	インド側: NMCG 会議室 (National Mission for Clean Ganga, Ministry of Jal Shakti) 日本側: 日本環境整備教育センター (JECES) 4F 会議室 Zoom (Web 会議システム) の Webinar を使用しインド側会場と日本側会場を接続した。
議 題	1. Introduction on Both sides of Management Council members cum Approval of Associate members (両側の第1回会議体メンバー紹介及び協賛メンバーの承認) 2. Keynote Speeches (from both sides) 基調演説 (両側) 3. Approve the Joint Working Program and the 1st Seminar program (共同作業計画書及び第1回セミナーのプログラムの承認) 4. Presentation from the Associate members of both the sides (両側の協賛メンバーによる発表)

まず初めに議題1として、ジャル・シャクティ省 国家ガンジス川浄化ミッション (National Mission for Clean Ganga, Ministry of Jal Shakti, 以下、NMCG) の Deputy Secretary (課長¹) である Shri Dheeraj Joshi (シュリ ディーラジュ ジョシ) 氏、そして環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 浄化槽推進室 指導普及係長の佐藤 亮真 氏より、インド側、日本側のそれぞれの会議体メンバー及び協賛メンバーの紹介があった。

続いて、議題2として両側を代表し、環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 浄化槽推進室長の沼田 正樹 氏と、ジャル・シャクティ省国家河川保全局 (National River Conservation Directorate, Ministry of Jal Shakti, 以下、NRCD) の Joint Secretary (次官補¹) である Shri Pradeep Kumar Agarwal (シュリ プレディープ クマール アガールワル) 氏より基調演説があった。なお、議題に記載はないが、インド側からの基調演説では、ジャル・シャクティ省の設立経緯や役割、組織の紹介が行われた。このインド側を紹介する発表資料については資料編 6.3.1. に示す。

議題3では、共同作業計画書及び第1回セミナープログラムについて審議が行われた。共同作業計

¹ インド側出席者の役職の日本語訳については「文部科学省スポーツ庁の在り方に関する調査研究事業(平成24年度)第6章インド(https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/chousa/detail/1333391.htm)」の図表-6-9(インド行政職(IAS)職員 役職の種類)を参考にした。

画書についてはインド側より、Annexure II のパイロットプロジェクトのプロモーターについて「National Mission for Clean Ganga, Ministry of Jal Shakti (Department of Water Resources, River Development & Ganga Rejuvenation) Government of India」となっているところを、National Mission for Clean Ganga (国家ガンジス川浄化ミッション) も包含する「Ministry of Jal Shakti, Government of India」のみの記載にしてはどうか、との提案があり、両側がこの変更に合意した。また、セミナーのプログラムについても 2023 年 12 月 19 日に開催することを含め両側が合意した (セミナープログラムについては資料編 6.4. に記載)。

議題 4 として、両側の協賛メンバーも自社の取り組みや自社製品・技術に関し紹介する発表を行った。しかし、インド側協賛メンバーである Arvind Envisol Ltd. はインターネット回線が不安定であるため発表をすることが出来なかった。同じく日本側協賛メンバーである株式会社ハウステック及び株式会社日吉についても、日程が合わなかったために第 1 回会議体会合を欠席し、発表は行っていない。議題 4 に係る両側の協賛メンバーによる発表資料については、資料編 6.3.2. ～6.3.7. に示す。

2.3.2. 有識者への謝金の支払い・同時通訳者の備上

会議開催に当たっては、日本語・英語の同時通訳者を備上し、前述の「2.1. 会議体構成メンバー表及び共同作業計画書の作成」において決定した日本側会議体メンバーのうち有識者に対し、請負者より謝金 (1 人 1 日につき 17,700 円) 及び国家公務員等の旅費に関する法律に基づく旅費 (6～3 級相当) を支給した。

2.3.3. 第 1 回会議体会合議事要旨

第 1 回会議体会合開催後、受託者で議事要旨案を作成しインド側とメールで協議を重ね議事内容の確認を行った。最終版の第 1 回会議体会合議事要旨について以下に示す。

なお、資料編 6.2. 第 1 回会議体会合プログラムではインド側会議体メンバーの一人として在日本インド国大使館の Ms. Madhuri Gaddam (マドゥリ ガダム) 氏が記載されているが、異動により後任の Mr. Shishir Kothari (シシル コタリ) 氏が出席した。



**Minutes of the First Meeting of the Management Council under India-Japan
Memorandum of Cooperation (MoC)**

Date	29 th November, 2023
Time	12:30-14:30 in Indian time 16:00-18:00 in Japanese time
Agenda	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction on Both sides of Management Council members cum Approval of Associate members 2. Key note Speeches (from both sides) 3. Approve the Joint Working Program and the 1st Seminar program 4. Presentation from the Associate members of both the sides
Venue of Indian side	Conference Room, NMCG and Video Conference
Venue of Japanese side	Meeting room, Japan Education Center of Environmental Sanitation (JECES)

A Memorandum of Cooperation (MoC) was signed on 19th March, 2022 between Ministry of the Environment, Government of Japan and The Ministry of Jal Shakti Government of India, in the areas of '**De-centralized Domestic Wastewater Management and Effective Reuse of Treated Wastewater**'. This cooperation seeks to provide solutions to various water related issues, encourage and facilitate cooperation in the areas of mutual interest, through exchanging information and expertise, organizing seminars, conferences and meetings, and capacity building through trainings and workshops.

The First Meeting of the Management Council (MCM) was organized on 29th November 2023. This meeting was organized under the Chairmanship of Joint Secretary, National River Conservation Directorate, Ministry of Jal Shakti, Government of India, from the Indian side and Director of Office for Promotion of Johkasou, Waste Management Division, Environmental Regeneration and Material Cycles Bureau, Ministry of the Environment, Government of Japan, from the Japanese side.

A total of 29 participants attended the meeting, out of which 14 attended in person from the Conference Hall at National Mission for Clean Ganga (NMCG) and the Meeting room, Japan Education Center of Environmental Sanitation (JECES) (Please refer Annexure-I for the name of participants) and 15 participants attended through video conference (Please refer Annexure-II for the name of participants). The participants included Permanent Members and Associate Members from both India and Japan side. The meeting was coordinated by National Mission for Clean Ganga from India side, and by Office for Promotion of Johkasou, Waste Management Division, Environmental Regeneration and Material Cycles Bureau, Ministry of the Environment, Government of Japan, from the

Japanese side. The proceedings of the meeting are as under:

1. Shri Dheeraj Joshi, Deputy Secretary, NMCG and Mr. Ryoma Sato, Section Chief, Office for Promotion of Johkasou welcomed the members to the session and introduced the agenda of the First Meeting of the Management Council.
2. Keynote address was delivered by Shri Pradeep Kumar Agarwal, Joint Secretary, National River Conservation Directorate, Ministry of Jal Shakti, Government of India, and Mr. Masaki Numata, Director, Office for Promotion of Johkasou, Waste Management Division, Ministry of the Environment, Government of Japan.
3. Shri Agarwal introduced the Key Government Schemes in Indian water sector. He also introduced core activities of the Ministry of Jal Shakti, and major departments of the government dealing with water under its aegis. Further, he introduced the Namami Gange Projects that the Ministry of Jal Shakti is working on.
4. Ms. Thi Mai Hoang, Senior Environment Expert Office for Promotion of Johkasou, Waste Management Division, Environmental Regeneration and Material Cycles Bureau, Ministry of the Environment Government of Japan, explained the Joint Working Program and the draft Seminar program.

Both Shri Agarwal and Mr. Numata expressed the importance of De- centralized Domestic Wastewater Management and the role of technology in addressing the same.

5. After deliberations, both sides agreed to the following-

- (i) Draft Joint Working Program was accepted by both sides with few amendments as below:

Name of the promoter of pilot projects in Annexure II of the draft Joint Working Program was '*National Mission for Clean Ganga, Ministry of Jal Shakti (Department of Water Resources, River Development & Ganga Rejuvenation) Government of India*', which is amended to '*Ministry of Jal Shakti, Government of India*'.

- (ii) To proceed with preparations to hold the 1st Seminar on 19th December, 2023 after this first MCM.
- (iii) To discuss again on holding the 2nd MCM after the 1st seminar is held on 19th December, 2023, if necessary.
- (iv) Management Council members and Associate Members nominated from the Indian as well as Japanese side (Names of the Associate Members are mentioned at Annexure-III).

6. A total of 7 Associate Members were present- 4 from India side and 3 from Japanese side. Brief presentations were made by following 5 Associate Members on the technologies and the work being done in De-centralized Domestic Wastewater Management and effective reuse of treated wastewater.:

- a. Sintex BAPL Ltd.
- b. Daiki Axis India Pvt. Ltd.
- c. Kubota Johkasou System Co., Ltd.
- d. FujiClean Co., Ltd.
- e. Daiki Axis Co., Ltd.

Arvind Envisol Ltd., another Associate member of the Indian side, was unable to make presentation due to the internet environment. In addition, Housetec Inc. and Hiyoshi Corporation, the other Associate members of Japanese side were absent from this 1st Management Council Meeting (MCM) because of their schedule issue.

7. The meeting was concluded with a vote of thanks by Shri Dheeraj Joshi, Deputy Secretary, National Mission for Clean Ganga, Ministry of Jal Shakti, and by Mr. Ryoma Sato, Section Chief, Office for Promotion of Johkasou, Waste Management Division, Ministry of the Environment, Government of Japan.

Annexure-I

List of participants who attended the meeting in person at the conference hall, NMCG

S.No.	Name	Designation
1.	Shri Pradeep Kumar Agarwal	Joint Secretary, National River Conservation Directorate, Government of India
2.	Shri Dheeraj Joshi	Deputy Secretary, National Mission for Clean Ganga
3.	Dr. Pravin Kumar	Director (Technical), National Mission for Clean Ganga
4.	Ms. Diva Pandey	Institutional Associate, National Mission for Clean Ganga
5.	Mr. Vishal Garg	Institutional Associate, National Mission for Clean Ganga
6.	Mr. Ashwini Dubey	Support Architect, RFD and URMP, National Mission for Clean Ganga
7.	Mr. Kamal Tiwari	CEO, Daiki Axis India Pvt. Ltd. India
8.	Mr. Rio Waza	Managing Director, Daiki Axis India Pvt. Ltd., Japan

List of participants who attended the meeting in person at the Meeting room, Japan Education Center of Environmental Sanitation (JECES)

S.No.	Name	Designation
1.	Mr. Ryoma Sato	Section Chief, Office for Promotion of Johkasou, Waste Management Division, Ministry of the Environment
2.	Dr. Kiyoshi Kawamura	Former Professor, Saitama University
3.	Dr. Yoshitaka Ebie	Manager, Planning Division (International Coordination Office), National Institute for Environmental Studies (NIES)
4.	Dr. Shinhi Kumokawa	Director, Center for International Cooperation of Johkasou System Japan Education Center of Environmental Sanitation (JECES)
5.	Dr. Yurie Shirakawa	Senior Researcher, Center for International Cooperation of Johkasou System Japan Education Center of Environmental Sanitation (JECES)
6.	Ms. Ayako Suzuki	Researcher, Center for International Cooperation of Johkasou System Japan Education Center of Environmental Sanitation (JECES)

Annexure-II

List of participants who attended the meeting through video conference

S. No	Name	Designation
1.	Shri Anup Kumar Srivastava	Executive Director (Technical)
2.	Mr. Masaki Numata	Director, Office for Promotion of Johkasou, Waste Management Division, Ministry of the Environment
3.	Ms. Thi Mai Hoang	Senior Environment Expert of Office for Promotion of Johkasou, Waste Management Division, Ministry of the Environment
4.	Mr. Ikuro Kasuga	Professor, Research Center for Advanced Science and Technology, The University of Tokyo
5.	Dr. Mihoko Nagai	First Secretary, Embassy of Japan in India
6.	Prof. A. A. Kazmi	Professor, Indian Institute of Technology Roorkee
7.	Dr. Ram Avtar	Associate Professor/Director, Hokkaido University/Global Land Programme
8.	Mr. Shishir Kothari	First Secretary, Political, Press & Information, Thematic Cooperation, Head of Chancery, Embassy of India in Tokyo
9.	Mr. Shubham Tiwari	Co-lead Institutional Associate
10.	Mr. Amit Shah	Head Global, Arvind Envisol Ltd.
11.	Mr. Naveena Nand Upadhyay	Deputy General Manager-R&D, Design, Sintex BAPL Ltd
12.	Mr. Yoshito Kitai	Deputy Manager, Kubota Johkasou System Co., Ltd
13.	Mr. Yosuke Tabata	Executive Officer, Overseas Business Group, FujiClean Co., Ltd
14.	Mr. Kazuo Saeki	Manager, Daiki Axis Co., Ltd

Annexure-III

List of Associate Members (Temporary members) nominated for both sides is presented in the tables below.

Indian side of Associate Members (Temporary members)

No	Designation	Organization/ Institution	Name
1	Head Global	Arvind Envisol Ltd.	Mr. Amit Shah
2	Deputy General Manager - R&D, Design	Sintex BAPL Ltd.	Mr. Naveena Nand Upadhyay
3	CEO	Daiki Axis India Pvt. Ltd.	Mr. Kamal Tiwari
4	Associate Professor/Director	Hokkaido University/ Global and Programme	Dr. Ram Avtar

Japanese side of Associate Members (Temporary members)

No	Designation	Organization/Institution	Name
1	Manager	Daiki Axis Co., Ltd.	Mr. Kazuo Saeki, Ph.D.
2	Executive Officer, Overseas Business Group	FujiClean Co., Ltd	Mr. Yosuke Tabata, Ph. D.
3	Manager	Housetec Inc.	Mr. Koji Tsukamoto
4	Deputy Manager	Kubota Johkasou System Co., Ltd.	Mr. Yoshito Kitai
5	Chief, Research and Development Planning Office	Hiyoshi Corporation	Mr. Kazuhiko Matsui



インド側会場



日本側会場



Shri Pradeep Kumar Agarwal
(シュリ プレディーブ クマール アガルワル氏)
Joint Secretary, NRC



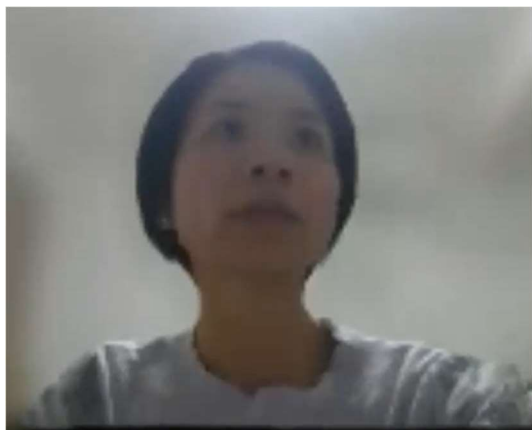
沼田 正樹 氏
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正
処理推進課 浄化槽推進室 室長



Shri Dheeraj Joshi
(シュリ ディーラジュ ジョシ 氏)
Deputy Secretary, NMCG



佐藤 亮真 氏
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正
処理推進課 浄化槽推進室 指導普及係長



ホワン ティー マイ 氏
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正
処理推進課 浄化槽推進室 環境専門調査員



Mr. Naveena Nand Upadhyay
(ナヴェーナ ナンヂュ ウッパードウヤイ 氏)
シンテックス BAPL 社
研究開発設計部 部長代理



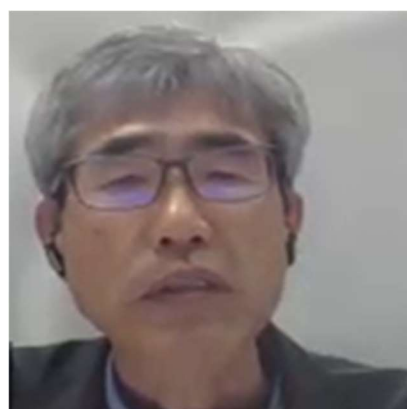
Mr. Kamal Tiwari
(カマル ティワリ 氏)
株式会社ダイキアクシス インド法人 CEO



北井 良人 氏
クボタ浄化槽システム株式会社 四国営業所
営業技術担当



田畑 洋輔 氏
フジクリーン工業株式会社 海外事業部 執行役員



佐伯 和男 氏
株式会社ダイキアクシス 海外事業統括本部
海外営業統括部 海外営業部 海外営業推進課
課長

図 3 第1回会議体会合発表者

第3章 セミナーの開催

3.1. セミナーの詳細プログラムの作成

第1回会議体会合で承認されたセミナーのプログラムに沿って発表者を選定し、開催日時、開催方法、司会者について環境省担当官及びインド側と協議の上、セミナーの詳細プログラムを作成した。第1回会議体会合で既に提供された情報と重複が無いよう、且つ、日本で浄化槽がどのように普及して利用されているのかをインド側に効果的に伝えることが出来るよう、プログラムを作成した。

完成したプログラムを資料編 6.4. に示す。

3.2. セミナーの開催

3.2.1. 開催概要

2023年12月19日にセミナーをオンラインで開催した。開催概要を表5に示す。

表5 セミナーの開催概要

日時	2023年12月19日 日本時間 15:00~17:00 (インド時間 11:30~13:30)
会場	インド側: NMCG 会議室 日本側: 日本環境整備教育センター 4F 会議室 Zoom (Web 会議システム) の Webinar を使用しインド側会場と日本側会場を接続した
内容	1. Opening remarks from both side (両側からの開催挨拶) 2. Presentation (発表) 3. Closing (閉会)

はじめに両側を代表し環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 浄化槽推進室長の沼田正樹氏と、NMCG の Director General (総局長¹) である Shri Asok Kumar (シュリ アショク クマール) 氏より開会挨拶があった。

続いてインド側からは1件、日本側からは6件の情報提供及び発表があった。

インド側からは、NMCG の Deputy Secretary (課長) である Shri Dheeraj Joshi (シュリ ディーラジュ ジョシ) 氏から、インドにおける生活排水処理状況について発表があった。インド側がガンジス河流域で展開する環境改善事業における実施内容(下水道施設の整備、河川敷の整備、固形廃棄物の処理、など)や、地方州における生活排水処理施設の整備状況、リアルタイムでの水質モニタリングシステム、水質改善状況の紹介が行われた。また、現在のインド国内の汚水管理状況を向上させるため、浄化槽などの分散型汚水管理も積極的に推進していく計画であるとの紹介も行われた。

日本側からは、環境省 資源循環局 廃棄物適正処理推進課 浄化槽推進室の佐藤 亮真 氏より、日本の生活排水処理の現状と集中・分散処理システムの管理について、そして、浄化槽法をはじめとする日本における生活排水の分散管理に関する法制度に関して発表があった。

続いて日本環境整備教育センターの雲川 新泌 氏からは、日本で浄化槽の保守点検、清掃、検査がどのように行われているか、また、資格者制度と汚泥管理について紹介があった。

また、日本側協賛メンバーであるフジクリーン工業株式会社 海外事業部 執行役員の田畑 洋輔 氏からは、分散型汚水処理施設に関する性能評価試験制度の必要性について、株式会社クボタ浄化槽シ

システムの担当部長である北井 良人 氏からは、日本の浄化槽の人員算定基準について、株式会社ダイキアクシスの課長である佐伯 和男 氏からは、浄化槽の国内外における施工事例について、それぞれ発表があった。

その後、発表内容に関して質疑応答が行われ、両側から積極的に質問やコメントがなされた。発表資料については資料編 6.5. に、質疑応答の記録については資料編に 6.6. に示す。なお、セミナー開催後に日本側会議体メンバーから追加で挙げられた質問については資料編 6.7. に整理している。

セミナーの最後に、環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 浄化槽推進室 指導普及係長の佐藤亮真氏と、NRCD の Director (局長¹) である Mr. Nelapatla Ashok Babu (ネラパトラ アショク バブ) 氏よりそれぞれ閉会挨拶があった。



インド側会場の様子



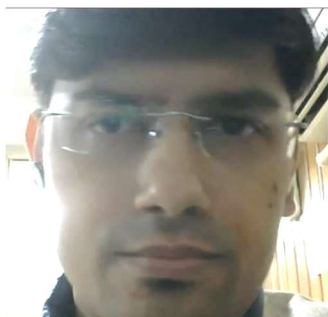
日本側会場の様子



沼田 正樹 氏
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理
推進課 浄化槽推進室 室長



Shri Asok Kumar
(シュリ アショク クマール 氏)
NMCG, Director General



Shri Dheeraj Joshi
(シュリ ディーラジュ ジョシ 氏)
Deputy Secretary, NMCG



佐藤 亮真 氏
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理
推進課 浄化槽推進室 指導普及係長



Mr. Nelapatla Ashok Babu
(ネラパトラ アショク バブ 氏)
Director, NRCD



雲川 新泌 氏
公益財団法人日本環境整備教育センター
浄化槽システム国際協力センターリーダー



田畑 洋輔 氏
フジクリーン工業株式会社 海外事業部
執行役員



北井 良人 氏
クボタ浄化槽システム株式会社 四国営業所
営業技術担当



佐伯 和男 氏
株式会社ダイキアクシス 海外事業統括本部
海外営業統括部 海外営業部 海外営業推進課
課長

図 4 第1回セミナー発表者

3.2.2. 有識者への謝金の支払い・同時通訳者の備上

請負者はセミナーの開催に当たって日本語・英語の同時通訳者を備上し、前述の「2.1. 会議体構成メンバー表及び共同作業計画書の作成」において決定した日本側会議体メンバーのうち有識者に対して、請負者より謝金（1人1日につき17,700円）及び国家公務員等の旅費に関する法律に基づく旅費（6～3級相当）を支給した。

3.2.3. セミナーにおける質疑応答

セミナー開催後、セミナーの中で行われた質疑応答と、後日、日本側会議体メンバーから挙げられた追加質問について一覧的に整理した。資料編 6.6. 及び 6.7. に示す。なお、インド側の回答は報告書作成時点で受領できていない。

第4章 来期の共同作業に関する調整

2022年3月19日に締結された日本側とインド側との間の分散型生活排水管理分野における協力覚書（MOC）に依れば、その活動期間は2年間とされており、2024年3月に期限を迎えるが、MOCの第10項には両側の同意によりMOCを延長することが出来るとされている。

そこで、インド側にMOCの延長の意思確認を行ったところ、2024年2月7日にインド側担当官から連絡があり、2年間のMOC延長（2026年3月19日まで）についてインド側大臣の承認が得られた旨の連絡があった。

なお、延長後のMOCに基づく活動はインド側が主体となり進めていくことになっており、MOC延長の意思を確認する際、併せてMOC延長後の活動計画等についてインド側に提供を求め、2024年3月6日に資料を受領した。

第 5 章 環境省担当官との打合せ

5.1. 第 1 回打合せ

日 時	2023 年 8 月 16 日（水） 13：40～14：45
場 所	環境省 23 階会議室
出席者	環境省浄化槽推進室：佐藤係長、ホワン様 在インド国日本大使館：永井様（オンライン参加） 日本環境整備教育センター(JECES)：雲川、白川、鈴木

1. 本年度業務の実施方針の確認

環境省担当官より提供があったキックオフミーティング資料と受託者が用意した業務実施計画書（案）及び業務工程表に沿って令和 5 年度業務の実施方針を確認した。

1.1 協力覚書（MOC）についての留意事項

- 環境省担当官より、本 MOC において日本側が提供できるものは日本の浄化槽に係るものみに留まることをインド側にも確認済みである旨の報告を受けた。
- 本 MOC の有効期限は 2 年間であり、延長に関しては本セミナー開催後に決定となる可能性が高い。セミナー終了後に JECES よりインド側に確認し、要望があれば受けることを共有した。確認する際、業務遂行における主体はインド側であると明確に伝えるようにとの環境省からの指示があった。今後のセミナー等の発表データを協議する際、日本の浄化槽以外の分散型排水処理設備は対象外であることを留意すること。

1.2 第 1 回会議体会合及びセミナーについて

- 開催時期：会議体会合は 9 月に開催するのが理想だが、どうしても難しい場合にあっては 10 月になることも差し支えない。インド側の都合も考慮して年内にセミナーまで終えるよう調整することを共有した。
- 開催形式：JECES より、第 1 回会議体会合及びセミナーへの協賛メンバーの参加について、可能な限り対面で参加するようにとあるが難しい場合はウェブでの参加でもよいかと確認し、環境省より了承を得た。
- また、環境省担当官より、会議体会合及びセミナーでは、日本側だけでなくインド側協賛メンバーから発表していただくことも検討するよう提案を受けた。ただし、インド側に知見をもった会社がない場合には日本側のみの発表でも差し支えない。加えて、会議体会合では、セミナープログラム案や共同作業計画書の内容について議論するというより、承認を得ることを目的とし、第 1 回会議体会合の開催前に両側で内容を十分つめておくよう指示があった。
- JECES はセミナーのプログラム案について、環境省担当官からの指示に基づき主に以下の点を修正する；①ビデオの放映時間は 12 分程度を見込む、②協賛メンバーによる発表件数が多くなる場合は全体の時間を調整する、③両側代表の基調講演の時間を短縮する。
- 永井様より、第 1 回会議体会合及びセミナーの円滑な開催に向け、以下 3 点を同時にインド側に照会したほうが良いとの助言があった；①第 1 回会議体会合の次第案の確認、②第 1 回会議体会合及びセミナー開催に向けた日程調整、③日本側協賛メンバーは 5 社になった旨の伝達。

1.3 会議体構成メンバーについて

- 環境省担当官より、春日教授はインドもしくは分散型汚水処理に関する実績及び研究をされているかという質問を受けた。JECES から、インドについては不明であるものの、途上国の排水処理に関して幅広くコメントを頂けるであろうことを回答した。
- インド側メンバー表に関して、S.No6 の IIT-Roorkee はインドにおける分散型汚水処理の第

1 人者である Kazmi 教授、S.No5 はチャーリー教授である可能性が高い旨を JECES より報告した。

1.4 協賛メンバーについて

■ 日本側の協賛メンバー

➤ 日本側の協賛メンバーとして、昨年浄化槽システム協会が協会メンバーに参加意向を確認していただいた際、ダイキアクシス、フジクリーン工業、ハウステックとニッコー4社の意向が確認出来たが、先月再度確認していただいたところ、ダイキアクシス、フジクリーン工業、ハウステックとクボタ4社は参加意向があり、また、JECES が声をかけた日吉を入れて5社となった。JECES は今後の業務を推進する際は、協賛メンバー内にて優劣はつけず、また、5社全てから発表いただけるとの回答を得られた場合は、その方向でプログラムの時間等を調整すること。

➤ 永井様より、ダイキアクシス社は MOC を締結する発端となった企業であるが、他の協賛メンバーと同等の位置づけで特別な配慮は必要ないとの提案があり、JECES も同意した。ただし、特別な配慮が必要ない点は同意したうえで、同社はインド側の状況に精通している企業であることから、意見を求めるなど同社の知見を基に協力いただく場合は問題ないのでは、と環境省担当官より言及があった。

■ インド側の協賛メンバー

➤ 在インド国日本大使館の永井様より、人事異動によって新たに Mathuria 課長の部下となられた担当の Dubey 様から、インド側の協賛メンバーとしてインドの民間企業の中から分散型排水処理に知見のある企業を選定したいが情報がないため難しい、もし日本側に知見があればインド側の企業を選定していただきたい、という趣旨のメールが送られてきた旨、情報共有があった。2023年3月の時点で日本と同数の民間企業を参加させたい、という話を Mathuria 課長がされていた旨も共有があった。これに対し JECES は、インド企業に関して知見がないと回答した。

➤ JECES は Kazmi 教授にインド側協賛メンバーとなりうる分散型污水处理関連企業の紹介を依頼することになった。

1.5 共同作業計画書の内容について

➤ 環境省担当官から永井様に、共同作業計画書の 3.Forms of Cooperation の Note for Indian side は最新版では削除されているが、理由があればご教示願いたいとの照会があった。永井様から、Note は注釈のため最終的に削除されるものという認識にて削除したと回答があった。

➤ 永井様から、共同作業計画書の「4.Cooperating Partner」でインド側にも事務局を設置し、「5.Beneficiaries」で SDG6.3 に寄与する、といったように内容を変更せず修辭上の修正を日本側で行い、インド側に確認を求めているが返答がない状況である、との共有があった。

➤ 共同作業計画書について環境省担当官は最終確認のうえ JECES と共有し、JECES よりインド側に改めて確認を依頼すること。また、永井様より、インド側から提供された初稿版を JECES と共有いただけることとなった。

1.6 インド側との連絡について

➤ 永井様より、Tiwari 様は秘書部門の方であり、オンライン会議の設定や日程調整等のロジを担当されていると思われる、との情報共有があった。人事異動の関係で、担当である Dubey 様は本件の詳細を把握していないため、メールの送信時は Tiwari 様含め局長以下全員を宛先に入れること、特に重要な事項の場合は Mathuria 課長に電話したほうが良いとの助言も頂戴した。

➤ また、永井様より、インドは反応が遅いため、メールは1度ではなく複数回送付し、かつ電話でフォローアップすることが必要である旨、助言を頂戴した。後日、永井様から Mathuria 課長の名刺をデータで共有いただくことになった（8月17日に永井様から環境省経由で JECES に情報共有済み）。

2. 業務ロジ

- 再委任等承諾申請書は予定がないため提出が不要。契約書は JECES から環境省の担当部門へ提出し、担当部門から浄化槽推進室に共有されることと承知しており、浄化槽推進室へ直接契約書の写しを提出することは不要。情報セキュリティ対策資料は他業務同様に印刷物で準備のうえ、対面にて提出すること。
- JECES は本打合せを踏まえて業務実施計画書を修正し、再度提出すること。
- JECES は業務工程表をより詳細な作業項目を抽出するよう修正し、再度提出すること。

3. その他

特になし

5.2. 第 2 回打合せ

日時	2023 年 11 月 27 日 (月) 13 : 30 ~
場所	環境省 23 階会議室
出席者	環境省浄化槽推進室 : 沼田室長、佐藤係長、ホワン様 日本環境整備教育センター(JECES) : 雲川、白川、鈴木

1. 第 1 回会議体会合プログラム

- JECES より第 1 回会議体会合のプログラムについて説明を行った。
- 環境省担当官より、インド側は所定の時間が延長する前提でプログラムを約 1 時間 30 分で組んでいるとのことだが、Agenda のどこで延長が発生するとインド側が考えているのか、質問があった。JECES より、どの部分が延長するのかはインド側に確認していないので分からないが、インドと会議をする際の特徴として、全体的に発言内容が冗長的で長くなる傾向があることを報告した。
- 環境省担当官より、会議の議事進行役は誰が行うのか質問があった。JECES より、日本側で会議を進行させて欲しいと伝えたが、インド側も司会者を立てたいとの要望があり担当者の Mr. Shubham Tiwari 氏がインド側の司会を務める予定であることを回答した。
- 環境省担当官より、最近、インド側が会議開催に向けて積極的な姿勢を見せるようになったが、第 2 回会議体会合の開催をインド側は前向きに検討しているということか、との照会があった。JECES より、インド側は 8 人目の会議体メンバーの追加について結局断念していることもあり、現状ではよくわからないと回答した。環境省より、セミナーを開催した後に正式にインド側に確認することになると思うが、第 1 回会議体会合の流れ次第では、その場で第 2 回会議体会合の開催についてお尋ねしても良いかと思う、とのコメントがあった。インド側が、12 月中に第 1 回会議体会合とセミナーを終わらせ、次年度のパイロットプロジェクトや第 2 回会議体会合を早めに計画したいという考えを持っている可能性について言及があった。
- JECES より、インド側の組織改編によって Mr. Shri Davendra Pratap Mathuria 課長が異動し、Mr. Shri Anup Kumar Srivastava が後任となり、会議体メンバーにもノミネートされていることを報告した。
- 環境省担当官より、パイロットプロジェクトの時期や規模、実施地域等、具体的情報を持っているか照会があった。JECES より、過去に前任の環境省担当官から伺った話によると、Jal Shakti 省で独自に予算を確保して浄化槽を面的に整備したいとのことであったが、最新情報を得ていないので現状の詳細は承知していないことを回答した。
- 環境省担当官より、第 1 回会議体会合を欠席する日本側メンバーはいるのか質問があった。

JECES より、会議体メンバー3名とも出席すること、協賛メンバーのうちハウステックと日吉は欠席することを報告した。JECES は、在インド日本大使館の永井様にも第1回会議体合会に出席いただけるか確認しておくこと。

- ▶ 環境省担当官より、第1回会議体合会のプログラム内に誤字があるので修正しておくこと、また永井様の Designation として Fist Secretary 記載しておくよう指示があった。
- ▶ 環境省担当官より、インド側協賛メンバーの Arvind Envisol Ltd. についてどういう会社か確認しておくよう指示があった。JECES より、インターネットで調べてみるが、第1回会議体合会の際に先方から発表資料をもらうことで情報が得られる可能性があることを回答した。
- ▶ 環境省担当官より、協賛メンバーの紹介が長くならないようインド側に事前に申し入れておくよう指示があった。
- ▶ 環境省担当官より、第1回会議体合会の冒頭で佐藤係長が日本側会議体メンバーを紹介する際の紹介文は JECES が提案書に記載した内容で問題ないか照会があり、JECES より、問題ない旨回答した。

2. セミナープログラム

- ▶ 環境省担当官より、第1回会議体合会でこのセミナーのプログラムが確定するのではないのか、との質問があった。JECES より、セミナーのプログラム案はインド側に共有しているが、インド側からは未だレスポンスがないので第1回会議体合会で確定できるかは見通せないことを回答した。
- ▶ 環境省担当官より、セミナーの発表者にも発表を依頼しなければならないので、なるべくなら第1回会議体合会で確定させること、もし第1回会議体合会で確定できなかった場合は、インド側と調整し11月中にプログラムを確定させるよう指示があった。
- ▶ 会議体メンバーの出欠について確認し、改めて環境省に報告する。

5.3. 第3回打合せ

日時	2023年12月6日(水) 10:50~11:30
場所	環境省 23階会議室
出席者	環境省浄化槽推進室：沼田室長、佐藤係長、ホワン様 日本環境整備教育センター(JECES)：雲川、武田、白川、鈴木

1. セミナー開催にあたって

(1) プログラムに関して

- ▶ JECES より、プログラムに記載されている日本側の協賛メンバーの発表者全員から発表に係る了承を頂いている旨を報告した。
- ▶ JECES より環境省が担当する2つのテーマの発表者について尋ねたところ、環境省担当官が2つのテーマ両方について発表すると回答があった。また、環境省担当官より、2つのテーマを連続して発表するため、10分及び8分の合計18分の持ち時間を合計15分にまとめるが、プログラムは変更しなくても良い旨、指示があった。

加えて環境省担当官より、浄化槽法に関する内容である2つ目のテーマについてはより重点的に解説を行ったほうが良いため、1つ目を7分とする予定であるとの共有があった。

- ▶ JECES より、環境省の閉会挨拶は誰が実施するのか質問し、環境省担当官より佐藤係長が行うと回答があった。

- ▶ 環境省担当官より、技術面に関する質問が多く出ることが想定されるため、環境省担当官による発表時間が3分短縮されることから、2回目の質疑応答を16分から3分延ばして19分としたほうが良いのではと提案があり、JECESは同意した。
- ▶ 環境省担当官より、現状のプログラムでは時間に余裕がないため、発表準備等で予定の時間から遅延するのを想定し、1回目の質疑応答の後に休憩時間を5分間設け、遅延した場合は休憩を挟まずに進行するのはどうかと提案を受け、JECESは同意した。
- ▶ 当日の司会進行担当は白川氏の予定。

(2) Zoomの事前登録に関して

- ▶ 環境省担当官より、セミナーは事前登録制か照会があり、JECESより、事前登録制にしていた別業務で開催した第11回ワークショップでは、メールアドレスの入力ミス等で参加用のZoomアドレスが届かないとの連絡を複数名の参加者から受けたため、事前登録制にすると円滑に参加が出来ないのではないかと考え、セミナーは事前登録制にしていないと回答した。
- ▶ 環境省担当官より、Zoomのアドレスは公開するのか照会があり、JECESよりHPに掲載して公開予定であることを回答した。環境省担当官より、Zoom会議参加用URLアドレスを知っていれば誰でも参加可能な状況は避けたほうが良い、参加者の属性等の情報も把握できないということか、と質問があり、JECESはご認識の通りであると回答した。
- ▶ 環境省担当官より、インド側で参加者の情報を取りまとめてもらえるのであれば事前登録制にしたりZoomアドレスを公開したりする必要はない、ジャル・シャクティ省にのみZoomアドレスを送付し、ジャル・シャクティ省からインド側の参加者に配布してもらえばいいのではと提案を受け、JECESは了承した。
併せて、属性情報を記載するフォーマットをJECESが作成しインド側に送付するよう環境省担当官より指示があり、JECESは了承した。

(3) セミナーの案内に関して

ジャル・シャクティ省以外にも本セミナーの案内をするかは環境省担当官が改めて検討し、追ってJECESに指示することとなった。

(4) 参加後のアンケートに関して

環境省担当官より、セミナーの評価と今後の参考のため、参加後の感想を求めるアンケートを作成するよう指示があり、JECESは了承した。アンケート機能を使うため、Webinarの形式で実施する予定。

2. その他

JECESより、セミナー開催前に打合せ（第4回業務打合せ）を行いたい旨を伝え、環境省担当官は了承した。追って開催に向けて日程調整を行うことに合意した。

5.4. 第4回打合せ

日時	2023年12月18日（月）15：00～16：00
場所	環境省 23階会議室
出席者	環境省浄化槽推進室：沼田室長、佐藤係長、ホワン様 日本環境整備教育センター(JECES)：雲川、白川、鈴木

(1) 第1回会議体会合議事要旨

- ▶ 第1回会議体会合議事録にインド側会議体メンバーとして記録されていた在日本インド大使館のMr. Shishir Kothariについて、正式な会議体メンバーであるか、また、なぜ変更になっ

たのか、JECES はインド側に確認すること。併せて、JECES は、第 1 回会議体会合の録音を聞き返して確認すること。

- JECES は、共同作業計画書に記載があるパイロットプロジェクトの実施主体について、第 1 回会議体会合議事録においてインド側が記載した通りに修正のうえ、インド側に確認を求めること。

(2) セミナー

- JECES より 12 月 18 日時点で受領している発表資料について共有した。環境省担当官より、スライド番号が無い資料については JECES で番号を付したうえでウェブサイトに掲載すること。
- 日英同時通訳の質を高めるため、発表者からはなるべく読み原稿を受領すること。
- 12 月 19 日のセミナーでは発表者に時間厳守の旨周知を図り、司会を担当する JECES は、万一割り当てられた時間を超過した発表者がいた場合は強制的に次の発表に移行する。
- QA セッションについても同様に時間厳守の徹底を基本とするが、メーカー各社の発表の後に設けられた質疑応答セッションは多少延長しても問題ない。
- インド側から提供された出席者リストの人数が少なかったことから、Webinar 参加者向けのアンケートは実施せず、セミナー終了後にインド側、日本側が双方で質問やコメントを QA リストに取りまとめて両者がそれぞれ回答を作成すること。
- 第 1 回会議体会合の際はインド側で音声聞こえないという訴えがあったことから、今般のセミナー開催に当たっては、インド側に言語選択ボタンの操作をセミナーの冒頭でアナウンスすること。Zoom 会議のホストである JECES は、Webinar 参加者全員のステータスをパネリストに変更し、発言及び画面の共有ができるようにすること。
- 万一、セミナーの中でインド側から第 2 回会議体会合の開催について言及があり何らか日本側の発言を促すような場面になった際は、佐藤係長に対応いただく。

(3) その他

- 2024 年 1 月 10 日から 21 日にかけて海外出張（ADBI 業務のインド現地調査）のため、JECES はメールへの返信等レスポンスが遅くなることを共有した。